その言葉を関わるすべての へに優しいモノ

SOY FOOD JOURNAL (10)

㈱岩瀬製作所 代表取締役社長 岩瀬友博さん インタビュ に向





回転式フライヤー(油揚げフライヤー)

がんもどきフライヤー

祖父がちょっと手伝ってくれたり」 らいいのかなと思ったら、創業者の ることは好きでした。これどうした

械業界のリ である㈱フジキカイに就職。 大学を卒業し、 ーディング・ 地元愛知で包装機

カンパニー

社だった。 て」実家に戻ることに。 その後、本人曰く「いろいろあっ 27歳での

渦中に34歳の若さで社長を引き継いだ岩瀬友博さん。コロナ禍も落ち着き、 豆腐・油揚げ業界から大きな信頼を寄せられる㈱岩瀬製作所。 4年前、コロナ禍の を牽引するフライヤ 958年 (昭和33年)の創業以来、油揚げ機械・フライヤ -メーカーの一社として、若き社長の思いを聞いた。 ーのメーカーとして、 業界

幼い頃からものづくりの現場で

の現場を目にしながら育った。 社に隣接した自宅から、 「子供の頃から、機械や、 生まれも育ちも愛知県蒲郡市。 ーをはじめとした製造機械作り つもフラ 物を作

ほとんど意識していなかったそうだ ら」と笑う。 てみたいという思いもありましたか 大学を選んだ。「一度、家から離れ ということで、 が、ものづくり、 長男とはいえ、会社を継ぐことは 進学先にも金沢工業 機械いじりが好き

設計業

製作所では何もかも違う。 国内のみならず てコツコツと信頼を築いてきた岩瀬 カイとフライヤー専業メー 800名以上の従業員がいるフジキ 海外にも拠点を持ち カー

械を作ると言っても、包装機械とフ 違和感を感じるというほどではな ない。設計部で設計にのみ携わって うことは改めてよくわかりました」 よってこんなに違いがあるのかとい ライヤーの違いというか、機械に かったですね。ただやはり、同じ機 らわかっていましたし、入社しても いればよかった前職とはまるで違う。 いうところかというのは子供の頃か 「ただ、町工場というものがどう 少人数で仕事を回さなければなら 「担当もはっきり分かれているわ

やっぱり仕事の仕方は違います」 けではありませんし、 ものづくりが好きな性分が仕事に もほぼないです それでも、 しれませんが、 そもそも機械いじりや 当たり前のこと 大きな企業とは 営業すること

> 職人技とも言える技術に驚きと憧れ 込むのは早かったし、自社の社員の も持ったと話す。 フィット したのだろう、 会社に溶け

ころは素直にすごいなと今でも思っまう技術を持っている。そういうと 図面がなくても機械を作り上げてし てしまいます」 図面も書きますが、 「もちろん、今では部品設計など 職人の人たちは

「人に優しいモノづくり」とは

が言うとなんとなく納得してしまう。 岩瀬製作所が標榜する「人に優しい 気で人当たりの良さは抜群だ。 モノづくり」という言葉も、この人 口調も優しさが滲み出るような雰囲 ているだけ」と謙遜するが、笑顔も 本人は「なんとか外見を作り上げ

のだろうか。 そのあたりはどのように考えている 方は違うだろう。 ただ、人によって、その受け取り 実際、社長として、

ば、それは人に優しくないというこ があっても、使う人が使いづらけれ 例えば、機械にどれほど高度な機能 この機械を使ってよかったと思って もらうことが重要です。 「やはり、 まずは機械を使う人が から、



だわりを持つ職人のようなお客さん 揚げの世界には、 揚げの出来にこ

まずはそ

伸びなくてもダメ、こやはり伸ばす工程が

伸びすぎて

はり伸ばす工程があ

から。

は多い。

などの機械も、

思っています」

持っているのか、 終わり、とはいかな のパッケージで製造 のようなニーズを いです。お客様がど して設置して、はい

わったのち、 せます。ですから、 さが必要だと言う 「うちのような小さな町工場では、

んな揚げを造りたい

考えれば、仕事は誰にとっても優し ことも重要です。全員がそのように められています。自分たちが目指す 優しいモノづくり』という目標に込 す。得意先にも従業員にも優しいモ の人間にとっても重要なものなので づくりというのは、そのように社内 べきものと思っています」 にとって優しいモノづくりが『人に 人が楽に仕事ができるように考える 一つの機械に全員が関わって完成さ ノづくり、つまり関わるすべての いものになります。 次の工程の仕事をする 人に優しいモノ 自分の工程が終

若い 人の成長 それは自分の責任

「社長になったからといって、 急

そう言う製造機械を作らないと、 顧客が満足することも優しさの一 お客様が満足できる機械を提供 さらには社内での仕事にも優し も油揚げを買う人も満足する その機械で造った油揚げで造 が、聞けば、社長になった経緯にもないですよ」と本人に気負いはないに何かが大きく変わるということは を進めているという。 引き継いだ時から、思い通りに経営 父の敏夫さんは後者タイプ。 プと、世間には2種類あるようだが と決めたらあまり口出ししないタイ る。 継ごうと思ったそうだ。「人に優し 親孝行のためにも社長として仕事を 社4年後、その父が65歳になった時、 らないなと思っていたそうだが、入 ら仕事を辞めると話していました」 の岩瀬敏夫さん)は、 優しさが見える。 ろいろと助言するタイプと、 い」のはこんなところにも現れてい その時には、どこまで本気かわか 仕事を譲って会長になっても、 「入社した時には、もう父 (現会長

任せる

社長を

長してほしい」ということ。そのた心がけていることは「若い人に成 めの試行錯誤があるようだ。 「教え方が昭和だ、 と言われるこ

動きやスピー その技をマニュアル化することは難 しい。溶接技術など、その人の手の いたが、職人技を駆使する人の職場、 ともある」と苦笑いする。先にも書 ドを見た上で自分でも



足がいくようにカスタマイズする 私たちもその方が嬉しい ります。特に油揚げは最も難しい。 う機械はなかなか難しい機械でもあ なります。そもそもフライヤ のか、そのニーズに寄り添

し勉強にも

の資料などは用意す 経験し血肉化してい る。もちろん前段階 くしかないこともあ

子供の頃から機械好き、

今の仕事は天職かも

かし、若手を育てるのは自分の仕事友博さん自身も見て覚えてきた。し わないと仕方がないことも多い。 回数を積んで感覚で覚えても どうすべきか考える毎日

品質は同じことを繰り返す うち徐々に上がる

験してきたそうだ。 程度の点まで到達する必要があると いう。そのことを友博さん自身も経 点がいくのには、 いろいろと教えてもらうことに合 自分の技術がある

「品質は同じことを繰り返すこと

で徐々に上

到達しない 返しが技術 がってくる ところまで を鍛えてい すよ。繰り ものなんで できる ある程 教えて

> てしまう」。職人を育てるということ をいってるんだろうということになっ には特有の難しさがあるのだろう。 もらっていることを理解できず、 何

ずれは食品工場の ライン製造も

い

るらしい。 実は最近、フライヤ と言われるのに、 少し思いがあ ・専業メー

品。今後、変化があるとしても加熱 方式くらいかもしれない。です フライヤーはある程度、完成した商 してみたいことはあります。やはり 「正直、フライヤー以外にも挑戦

> 場全体を見てみたい。ライン製造にもう少し大きな視野に立って食品工 も踏み込んでいきたいですね」と意

ない。単に省人化する機械を入れて れるのが有効かと考えなければなら るのかを見極めて、どんな機械を入 機械を入れて、単に人を削減すると を見たりしていろいろと考えること も多いです。やはり中小の工場は、 も、それが有効に使えるかどう いうのではなくて、 いので、ディ 「営業して仕事をするわけでは うことはまた別の話です」 ・ラー どこに無駄があ さんと食品工場 かと な

本社事務所棟(左)と工場(奥)

PROFILE

機械をメンテナンスすることもある 顔になった。 んですよね、と話を振ると思わず笑 そんなことを話しながら、 他社の

で動いているんだ、とか」 白いんです。そうか、こんな仕掛け ラしてみると、昔の機械は本当に面 われることもあるんですよ。で、 「40年も前の機械を見てく れと言

に印象的だ。 そんな話の時のニコニコ顔は本当

好きというのが嘘ではない証拠だろ しれません」。子供の頃からの機械 「仕事が楽しくできる、 天職かも

(文責/編集部)

ち、㈱岩瀬製作所に入社。 2022年(令和4年)、代表取締 役に就任。 一女(小学3年生)一男(小学] 年生)の父。 株式会社岩瀬製作所

岩瀬友博(いわせともひろ)さん

場を見ながら育つ。

1987年(昭和62年)愛知県 蒲郡市生まれ、38歳。(株)岩瀬製

作所の3代目社長。自宅と工場 が隣接しており、幼い頃から工

金沢工業大学卒業後、㈱フジ

キカイで設計業務に携わったの

本社

₹ 443-0046 愛知県蒲郡市竹谷町西ノ浜34 Tel 0533-68-2318(代表)

https://www.iwa-sei.com

(13) SOY FOOD JOURNAL

65歳になった